

まちづくりオープンミーティング 意見・回答概要

日 時：令和 8 年 4 月 26 日（日） 13：30～15：00

会 場：加古川西公民館 12 人

視聴者数：Instagram 277 人（最大同時接続数 18 人）

YouTube 469 人（最大同時接続数 105 人）

会場

No.	種別	内容
1	意見	古き良き盆踊りを現代風にアレンジした「ボンダンス」を、加古川市の新たな名物として活用し、まちの賑わいや魅力発信につなげてはどうか。
	回答	河川敷や駅前などで実施されているイベントは、まちの賑わいや楽しさにつながっていると認識しており、ボンダンスについても十分可能性があると考えている。加古川市でも、よきこいやかつめしダンス、かこのちゃんダンスなど、様々なダンスを活用した取り組みがある。一方で、特定のジャンルだけを押し出すのではなく、様々な活動やイベントの中で広がっていくことが大切であると考えている。まずはイベントなどで実績を重ねながら、賑わいづくりにつなげていただきたい。
2	意見	今年度から始まった「こども誰でも通園制度」について、意義のある取り組みだと感じている。一方で、現場では人員体制の中で新たな受け入れを行う難しさもある。実際の利用状況や現場負担をどのように把握しているのか、また今後どのような体制整備や支援を進めていくのか。
	回答	当該制度は、国の方針を受けて令和 8 年度から全国的に始まった制度であり、市でも昨年度から認定こども園や保育園などと協議を重ねながら準備を進めてきた。一方で、待機児童が残る中で追加的な受け入れを行うことは現場にとって負担も大きく、現時点では受け入れ枠も限定的なスタートとなっている。今後は、利用状況や現場、保護者の声を丁寧に把握しながら、必要に応じて受け入れ枠や支援体制の充実を検討していきたい。
3	意見	平和祈念展は、展示や講演など工夫された内容となっているが、1 日開催ではもったいない。より長い期間開催して多くの市民に知ってもらうべきではないか。広報やチラシの周知を強化するとともに、加西市の平和資料館のような施設整備も検討してほしい。
	回答	平和祈念展は、追悼中心の行事から、若い世代にも平和について考えてもらえるよう、展示や講演、吹奏楽演奏などを取り入れた形へと見直してきた。一方で、1 日の開催だけでは来場できない方もいることから、展示や献花スペースをもう少し長く活用できないかという意見は、今後の参考にしたい。また、尾上飛行場関連の資料については尾上公民館で展示を行っているが、加西市のように飛行場跡地が残っている状況ではないため、大規模な資料館整備までは至っていないのが現状である。
4	意見	「かこくら」に登録しているが、中学校区が広く、地域によっては活動場所までの移動が

		難しい。特に地域活動のクラブでは、保護者の送迎にも限界があるため、交通費補助や移動手段の支援を検討してほしい。
	回答	「かこくら」は、令和9年度の本格実施に向け、令和8年度から先行実施を進めており、現在はクラブ立ち上げ支援や保険加入費の補助、簡易照明の整備などを行っている。一方で、活動場所の地域偏在や移動手段の課題は、市としても大きな課題と認識している。特に、種目や地域によっては活動場所が限られ、遠距離移動が必要になるケースもある。現時点で、かこバス等による送迎支援を行う予定はないが、令和8年度の実施状況や他自治体の事例も参考にしながら、保護者負担や移動支援のあり方について検討していきたい。
	意見	地震などの災害時に避難所となる学校などで、水の確保をどのように考えているのか。
5	回答	市では、防災対策として、災害時の水の確保に取り組んでいる。平成28年度から30年度頃にかけて、県の補助事業を活用し、小中学校で避難所用井戸の設置を進めてきたが、水量や水質の問題から活用が難しい場所もあった。そのため、平岡小学校、尾上小学校、東神吉小学校、志方東小学校には、各10万リットル規模の耐震性貯水槽を整備しているほか、小中学校など計25か所に応急給水栓を設置している。また、各避難所にはボトルドウォーターを備蓄しており、上下水道局でも約3万本を保管している。さらに、周辺自治体との連携により、給水車を相互に派遣できる体制も整えている。
	意見	八幡町など北部地域では公共交通が不十分であり、土日に利用しづらい状況がある。また、厄神駅にはエレベーターがなく、バリアフリー化が進んでいないことについて考えを聞きたい。
6	回答	市では、超高齢社会を見据え、地域の実情に応じた公共交通の整備を進めている。八幡町や平荘町では、事前予約制の乗り合いデマンドタクシー「チョイソコかがわ」を導入し、地域内の細かな移動や厄神駅へのアクセス確保に取り組んでいる。また、西部地域ではかこバスミニを運行するなど、地域ごとの特性に応じた移動手段の確保を進めてきた。一方で、土日の利便性や交通空白地の課題は引き続き認識しており、今後も地域の声を踏まえながら改善を検討していく。また、厄神駅のエレベーター設置などバリアフリー化についても重要な課題と認識しており、JRと相談していきたい。
	意見	小学校で行われている別室対応や支援教室について、保護者に十分知られていないのではないかと。また、不登校への支援について、市の考えを聞きたい。
7	回答	市では、不登校児童生徒への対応として、各学校で別室対応などを行い、こどもの状況に応じた支援を実施している。学校側では保護者への周知を行っている認識であるが、十分に知られていない可能性もあるため、改めて状況を確認していく。また、学びの多様な学校の整備を進めており、不登校を経験した子どもたちが、自分のペースで学び直しできる環境づくりにも取り組んでいる。加えて、フリースクール利用者への補助制度なども実施している。現在、市内では約700人の小中学生が不登校状態にあることから、引き続き、支援を進めていきたい。

8	意見	町内会は年配の方が中心となり、多くの業務を担っているため負担が大きい。業務の内容や役割分担を見直し、地域コミュニティをどう維持していくかも含めて検討してほしい。
	回答	市では、町内会長や民生委員などの担い手不足や負担の偏りについて、地区ごとの懇談会やアンケートなどで課題を把握している。民生委員の業務負担軽減や、公園管理・水路掃除・高木の枝剪定などについては、担当部署と連携して柔軟に対応している。今後も、必要に応じて業務のやり方や支援方法を見直していく。また、デジタルツールの活用なども含め、改善策を検討していく。
9	意見	教員不足や現場負担が深刻化している。担任の交代が多く、児童生徒が学校に通えなくなるケースもある中で、教員の確保や現場負担軽減策について、市の考えを知りたい。
	回答	教員のなり手不足は全国的な課題であり、加古川市だけの解決は難しい。一方で、市役所北館にスクールローヤーや心理士などの専門家チームを設置し、学校の困りごとに即応できる体制を整えている。また、部活動の地域展開も進む中、働き方改革による教員の負担軽減を進めており、デジタル端末導入による業務支援も行っている。不登校児童生徒への対応も含め、現場の課題に応じた支援策を検討し、少しでも状況改善できるよう取り組んでいきたい。
10	意見	今年度から中学校で学校司書が配置されたが、全校ではない。小学校への配置予定や、図書室整備を通じて、こどもたちに読書環境を提供する方針について知りたい。
	回答	市では、トイレ洋式化やギガスクール整備、エアコン導入などもあり、全校への司書配置はまだ実施できていない状況である。一方で、生成AIなどの技術も進展しており、図書のおすすめや感想文作成の補助など、効率的な支援が可能になりつつある。こうした状況も踏まえ、引き続き小学校への配置や図書室の環境整備について検討していきたい。
11	意見	西公民館の建て替えに際し、地域住民や町内会との十分なコミュニケーションを取り、利用者のニーズを反映した施設整備を進めてほしい。また、川の西側や北側など、人口減少が進む地域でも安心して暮らせる環境づくりや地域活性化策を検討してほしい。
	回答	西公民館は、市内でも利用者が最も多い公民館の一つであり、建て替えにあたってはエレベーター設置など利便性を向上させる予定である。基本的には、最近新しく整備した公民館と同様の機能を持たせつつ、床の割り当てや施設構成の大枠はほぼ決まっているが、「こういう機能もあったら」というご意見は、早めにお寄せいただければ、検討していきたい。さらに、西側・北側地域では、駅前などへの人口集中の流れがある一方、志方地区や平荘・上荘・八幡では田園まちづくり制度などを活用して移住や家屋建設の支援を行い、地域の活性化を図っている。今後も、地域の声を丁寧に把握しながら、人口減少が進む地域も含め、高齢者や子育て世代が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいく。

ライブ配信

No.	種別	内容
1	意見	使われていない田畑や空き家、空き地が増えており、防犯や倒壊への不安がある。地域活性化や治安向上のためにも、対策を進めてほしい。
	回答	空き家や空き地の増加は全国的な課題となっている。市としても重要な課題と認識しているが、空き家は個人の財産であるため、行政が自由に解体や処分を行うことは難しい。一方で、倒壊の危険がある空き家については、審議会で危険性を判断し、必要に応じて危険除去を行う制度を設けている。また、空き家の解体補助や、北部地域への移住促進を目的とした空き家活用補助制度なども実施している。 農地についても、担い手不足や高齢化が課題となっているが、新規就農支援や先進事例の研究などを進めている。

事前質問

No.	種別	内容
1	意見	宝殿駅周辺で、回送列車が頻繁に通過することで踏切が長時間閉まり、国道 2 号まで渋滞が広がるなど、日常生活に支障が出ている。回送列車を営業運転として加古川以西に走らせることはできないか。
	回答	JR のダイヤは、沿線の利用状況や採算性を踏まえ、最適な形で組まれているものであり、市として直接変更できるものではない。一方で、市や沿線自治体は JR との連絡会議を通じて、地域の困りごとや要望を共有しており、必要に応じて情報提供や意見交換を行うことは可能である。まずは今回のような踏切への影響についても、状況を詳しく確認したい。
2	意見	市内の「Kakogawa_Free_Wi-Fi」がつながりにくく、不便を感じる。改善や整備について考えを聞きたい。
	回答	これまで市役所や公民館など公共施設に公衆 Wi-Fi を整備してきたが、導入から年数経過しており、速度面などで不便を感じるケースがあると認識している。一方で、近年は携帯回線の普及などにより、公衆 Wi-Fi のあり方自体を見直す自治体も出てきている。市としても利用実態や必要性を踏まえ、今後どのような形で整備を進めるべきか検討していきたい。
3	意見	保育園の入園に際し、障害のある子どもを育てる家庭では、療育などの理由で正社員として働くことが難しく、現行のポイント制度では共働き世帯が優先されやすい。制度の公平性や他市との違いについて改善を求めたい。
	回答	市では、保育所入所調整において、申請者の状況を点数化し、優先度を決定している。調整基準はこれまでの意見を反映して作成しているが、障害のある子どもや家族の事情について、十分に反映できていない場合もあると認識している。他自治体の事例も参考にしつつ、担当課と連携しながら制度の改善や調整を検討していきたい。
4	意見	加古川の中州の樹木が増えており、豪雨時に流木などが引っかかることで水害につなが

	<p>るのではないかという不安がある。国の管理ではあるが、市としての認識や国への働きかけについて聞きたい。</p>
回答	<p>加古川の河川管理については国土交通省が主体となり、土砂掘削や樹木の伐採などを計画的に実施している。市としても、中州の樹木や河川内の状況について不安の声があることは認識している。国土交通省では、危険性や優先順位を踏まえながら対策を進めているが、市としても、こうした市民の声を共有し、連絡会議などを通じて、安全対策や適切な維持管理について引き続き働きかけていきたい。</p>